

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1－1. 申請団体

団体名	新潟県魚沼地域振興局農業振興部（魚沼農業普及指導センター）			代表者名	小林 泰
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	普及課担い手経営グループ	連絡先電話番号	025-792-7132
担当者役職	専門普及指導員	担当者氏名	山本和広	連絡先E-mail	
住所	946-0004 新潟県魚沼市大塚新田9 1－4				

1－2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	連絡先E-mail

1－3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	協同農業普及事業
概要	「普及活動におけるAI技術活用研修」 報告資料や指導資料の作成など、日頃パソコンにより行っている業務について、AI技術の活用方法を研修し業務の効率化を図る。		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） AI活用 生成AI活用		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2－1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	748	令和8年1月9日	フォローアップ	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年12月4日	フォローアップ(実地)	13時30分	15時30分	
				活動時間（分）	120
2－2. 派遣場所	会場名	新潟県魚沼地域振興局		最寄駅	JR浦佐駅
	所在地	新潟県魚沼市大塚新田9 1－4		最寄駅からの交通手段	当振興局公用車

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	福田 浩一
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	1 回目のWEB研修で、生成AI技術に一定の理解があった上で、業務においての活用方法を学べたことが有益であった。 普及指導活動を全て生成AIに任せることはできない。環境条件などへの適性と正確な情報判断が重要であり、それを判断して指導できる普及指導員が必要となる。とした普及員の在り方や役割について、長く農業普及指導に関わってきた知見と、全国各地の事例を踏まえた講演をいただき、我々普及指導員が今後どのように活動を展開し、そのなかでAIをどう活用していくべきか参考となった。 県のシステム環境下では活用できる技術に制限があるが、急速に進化している生成AIの技術について、写真取り込みやAIとの会話で省力化が可能になるなど、最新のAI技術や可能性について知ることができた。
アドバイザーへの要望事項	入力するプロンプト内容で、得られる回答にどのような違いを生じるか、事例紹介により効率的な入力の形態を学びたかった。 生成AIに期待する業務が個々で異なり多様であるため、どのようなことをさせたいか事前に聞き取り、各種AI技術の中で何を活用することで効率的に結果が得られるといった業務改善に即つなげる事例が得られるとよかった。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4－1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	14人
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	14		その他(学生など)

4－2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	県で農業普及指導を業務とする私ども普及員が、業務の効率化や専門性を発揮する上で活用可能な生成AI技術の種類や活用場面など、ほとんどの職員が認識できていなかったので手を出さずにた。 当県の情報システム管理担当課では、生成AI技術の利活用に向けた改良を進めていたが、利活用を積極的に進める指導もなく、担当業務での効率的な活用方法を学ぶ機会もなかった。 しかし、現地指導の中では若者を中心に活用している声も聞かれるようになり、我々も活用に向けて知識を得る必要があるのではないかと意見が出始めていた。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	生成AI技術を日頃の業務に活用し、高度化と時間短縮を実現する。 各種AI技術の特性やリスクについて理解し、活用手法を学ぶ。 日頃の業務へのAI技術の活用事例について情報共有を図り、危険性や注意点を認識しつつ効率化を目指す。

アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	普及活動の展開における生成AI技術活用の可能性とその限界の把握 1．生成AIが普及すれば、公的な立場となる普及指導員が重要になる。AIに使われない、AIを使う 2．農村を変えるとの高い志を持つ普及指導員になる。普及指導員の農村での立ち位置を把握する 3．若い普及指導員は、まずオンリーワンの技術（病害虫・土壌・品種特性・経営分析など）を身に付ける 4．農家が楽しみにするプレゼン技術やコミュニケーション能力など普及技術を習得する	
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	1回目の研修により生成AI技術を日頃の業務に活用する職員が増加し、能率向上が図られた。 情報収集、整理のためにAIを活用している割合 100% 報告書や案内文など文書作成に活用している 55% 研修会の企画やイベントのアイデア出しに活用 45% など、活用場面が増加し、文章校正やアンケートの設問、集計など、相互に紹介したことで利活用手法の共有が図られ、組織全体への波及につながった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 各種研修会の企画、アンケートでの調査項目の設定、資料作成における原稿素案の作成など、検討素材の提案に活用しており、研修会からの具体的な成果物は得られない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	県のシステムの中で活用しやすいAIが限られる。 GeminiやNotebookLM、ChatGPTについて、有償アカウントを利用できる環境があれば具体的にどのような業務改善につながるのかわからない。（熟練者からは強い要望がある）	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（E X C E LやP D Fでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。  （アンケートの全体集計ができていません） 今回の研修はためになったと実感した声がより多く聞かれた。 先端技術の紹介や、音声や画像を取り込む具体的な活用方法が参考となった。	
4－3．今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	⑤その他 取扱う情報の内容について注意喚起しながら、多様な生成AI技術を有効活用し、活用場面について相互に情報交換していく。
4－4．事業の最終的な目指す姿	各職員が生成AI技術を効率的に活用し、より完成度の高い資料を作成できるようになる。 事務作業の効率化が図られ、現地活動へ振り分けられる時間を確保できる。	

5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可

☐掲載可

[https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good practices/past\\_year\\_all\\_houkoku/](https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good practices/past_year_all_houkoku/)

なおくその他＞を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6．地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

